

防潮堤の自動閉鎖

今月から運用へ 東日本大震災を教訓に

we support
RQ
災害教育
センター

MONTHLY

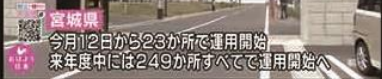
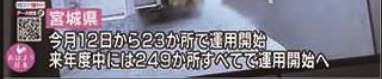
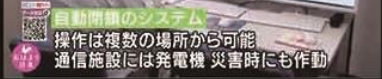
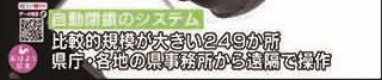
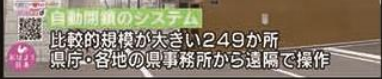
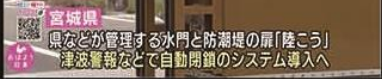
「東北に黒糖を送ろう!大作戦しんぶん」改め
復興支援「すけさきた」しんぶん
かめらぼん

「すけさきた」とは
宮城県登米市あたりの言葉で
「ボランティアに来たよ」という
意味である

JUNE
11
2020



▲NHK「おはよう日本」で紹介されたときのニュース映像(6月8日)



自動/遠隔操作で閉まる!

「みやぎ県民防災の日」の12日から一部運用開始

(6月8日 NHK NEWS WEB 河北新報)

宮城県は、東日本大震災で水門を閉める作業にあたった消防団員などが津波で亡くなったことを教訓に、津波警報などが出ると自動で防潮堤の扉などを閉めるシステムを導入し、今月から運用を始めることになりました。

総務省消防庁によりまずと、東日本大震災では水門などを閉める作業にあたった多数の消防団員などが津波の犠牲になり、岩手、宮城、福島の3県で合わせて59人、宮城県内では11人が亡くなったということです。

これを教訓に宮城県は、震災から10年を迎えるのを前に県などが管理する水門と防潮堤の扉である陸閘(りっこう)・防潮堤を貫く道路の門)を津波警報や注意報などが出ると自動的に閉めるシステムを導入することになりました。

導入されるのは比較的大規模が大きい249か所で、県庁や各地の県の事務所から遠隔で操作します。

操作は複数の場所から行えるほか、水門や陸閘の通信施設には発電機を備え付けていて、災害時にも作動できるシステムにしていくということです。

県は今年12月から23か所で運用を始め、震災から10年となる来年度・令和3年度中には249か所すべてで運用を開始し現場で活動する人たちの安全を確保したいとしています。

同システムは水門での実績はあるが、陸閘は初めて。津波の襲来時に現地で人が作業する危険を回避する。

対象となるのは、東日本大震災の復旧復興事業で整備された塩釜、気仙沼、七ヶ浜、女川の4市町にある海拔3.3~7.2メートルの防潮堤に備わる陸閘23基。大津波警報、津波警報、津波注意報、高潮警報のいずれかが発令されると、システムが稼働する。

気象庁の警報などは全国瞬時警報システム(Jアラート)と県総合防災情報システム(MIDORI)を通して仙台、東部、気仙沼の3土木事務所を受信。電話、無線の両回線で現地の通信設備に信号が送られ、陸閘の門が自動で閉じる仕組み。

警報が出てから2~10分後に門が動きだし、いずれも5分以内に閉まる。停電に備え、自家発電機も配備した。防潮堤の上部に設置された回転灯やスピーカーで近くの住民や観光客らに避難を呼び掛ける。

資料: NHK NEWS WEB、河北新報